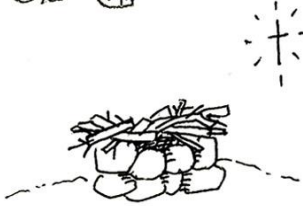


ざいぎょうかい しんぶん がぞく ひと いっしょ よ くだ
* 塚教会 CS 新聞「いずみのひろば」は家族の人と一緒に読んで下さい。

いずみのひろば

2019年7月号
日本基督教団塚教会
No. 488 教会学校



「アブラハム、イサクをささげる」

そうせいき
創世記 22:1~14

さい さい あいだ う
100歳のアブラハムさんと90歳のサラさんの間にやっとのことで生まれたイサクさん。

このイサクさんが少年になったころのアブラハムさんとイサクさんのお話です。

なんと神様はアブラハムさんにびっくりするようなことを言いました。

「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤ（後のエルサレム）の地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」と。

アブラハムさん、イサクを連れてモリヤの山へ登っていったのです。

アブラハムさんは、そこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクをしばって祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り息子を殺そうとしました。

まさにその時のことです。天から主の御使いがきて、言いました。

「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子ですら、わたしにささげることを惜しまなかった。」

アブラハムさんはどんな気持ちだったのでしょうか？

このアブラハムさんの時代から約2,000年後、モリヤの山で神様はその独り子、イエス様をささげてくださいました。

私たちにも、「なんでこんな目にあわなきゃなんないんだ？」といったことが起こり得ます。

そう思う時でも、必ず神様はみんなのことを見てくれています。十字架のイエス様が共にいてくださってます。心からそう信じることができる私たちでありたいものです。

しものなおき せんせい
(おはなし 霜野直紀 先生)